

1 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。  
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。  
b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。  
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。  
c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「：とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (現代文・評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各4点×2＝8点

(a) 創造 (b) 理論

問二 10点

【模範解答例】

人間は有機的、生命的な全体として自然の一部であり、その摂理に従属する存在であるが故に (A 4点)

人間の技術は自然の模倣としての (B 3点)

不完全な人為的再現でしかなく (D 1点)

自然存在の完全性には決して到達できないという考え方。

(100字)

(C 2点)

◎採点のポイント

※ 西欧前近代の自然観に基づく技術観を説明する設問。傍線部までの本文の要旨をまとめる設問。

A 問題文冒頭の二つの文と対応している【4点】

※自然は有機的、生命的な全体である(2点)「有機的、生命的」という内容があれば可。

※人間も自然の一部である(1点)「調和」「共生」など可。

※人間は自然の摂理に従属ものである(1点)「従う」「従属する」の意味があれば可。

B 問題文冒頭から三つ目の文に対応している【3点】

※「人間の技術」が「模倣」であり「人為的再現」である、という内容。「模倣」「人為的再現」のいずれかが示されていればよい。

C

※人間の技術は「自然存在の完全性には到達できない」という内容【2点】

※自然・自然の完全性との比較をせず、単に「劣る」「劣っている」という説明はマイナス1点で、1点とする。

D 人間の技術は不完全であり、自然存在は完全であるという内容を踏まえていること【1点】

解答のどこかに含まれていればよい。「技術は不完全」、 「自然は完全」のいずれかが書けていれば可。

問三 14点

【模範解答例】

多種多様な要因、要素の複雑な相互作用からなる自然から、(A 4点)

人間が本質的と判断した部分だけ取り出して (B 3点)

自然の理想状態なるものを人為的に設定し、(C 3点)

そこに自然本来の法則を探ろうとするのが (D 2点)

近代科学の研究だということ。(100字) (E 2点)

◎採点のポイント

※ 近代科学を支えるパラダイムについての筆者の批判的な解説をまとめて提示することが求められている設問である。答案内容は、傍線部を含む段落の要旨のまとめとなる。

A 段落冒頭文に対応する。「要素」「要因」のうちの一つがあればよい。「相互作用」は「絡み合い」という語で説明されていても許容。【4点】

※自然はいろいろな要素・要因からなる(2点) 「要素」「要因」のうちの一つがあればよい。

※(要因・要素は)相互作用がある,絡み合う(1点)

※「複雑に」という内容(1点)

B ほぼ同意の説明が答案中になればよい。段落中にこれと全く同じ記述がある。【3点】

※人間が判断した,抽出したという内容(2点)

※人間が「本質的」だとした,という内容(1点)

C 自然の「理想(的)状態」が「人為的に」作り出されるという内容が、答案中に含まれておればよい。【3点】  
点】ここもほぼ同等の記述が段落中にある。

D Cが抜けているものはDの加点はなし。Cが誤字などで0点の場合はDを加点してよい。【2点】

人間が恣意的に設定した「自然の理想状態」を前提として、そこから法則を導こうとするのが近代科学なのだと筆者は言っている。すなわち、注意すべきは、Dの「自然本来」という語の使い方である。Cを前提とした上での「自然本来」であり、Cの前提なしに「自然本来」と言うなら、筆者の論旨と食い違ってしまう。

E 「近代科学」についての説明であることが答案のどこかで示されておればよい。【2点】

【模範解答例】かつて人間の技術は、畏怖すべき神や自然の模倣で

不完全なものだとされていたが、(A 4点)

自然の支配・管理を目指した近代科学が (B 4点)

エネルギー革命をきっかけに産業と結びつき、(C 3点)

強大な機械が登場することで、(D 3点)

人間の技術が自然を征服しようという

幻想が生まれたということ。(120字) (E 4点)

◎採点のポイント

※ 近代科学がもたらした人間中心主義的な自然観、そしてそれが生み出した技術を背景とするエネルギー革命の結果として資本主義的な産業社会が成立する。そのプロセスと一体化した技術観の変遷をまとめることを要求する設問である。具体的には、前問の傍線部(2)より後に展開される文章の要旨のまとめが求められている。

A 変遷の説明であるから、傍線部の「技術が科学技術となる」以前の技術観も簡潔に示すべきである。それがこのAの内容。当然のこととして問二の答案内容との重複は避けられない。「科学技術」が人間による積極的な自然への働きかけであるという点との対比が示されておればよい【4点】

※ 「かつての技術は」という内容(同意が読みとれれば可。「技術はくだったか、」などという過去の表現でも可。変化前の説明であることが分かれば可) (1点)

※ 「人間の技術は自然の模倣」という内容(2点)

※ 「人間の技術は不完全なもの」という内容。自然より劣る、という内容が読みとれれば可。(1点)

B 「科学技術」の前提をなす近代科学の自然観への言及。自然より優位な立場から、自然に対して積極的、能動的に働きかけようとする人間の姿勢が説明されておればよい。【4点】

※ 近代科学が、自然を「制服」「支配」「管理」することを目指す、という内容があれば可。

※ 「優位にある」という説明にとどまるものは、マイナス1点で、3点とする

※ 「自然への働きかけ」というだけの説明をしている答案は、マイナス2点で、2点とする。

C エネルギー革命への言及は不可欠。産業という語は無くても可。【3点】

D 強大な機械の登場については、ミッシェル・シュバリエの引用中にある。具体的な説明要素として答案に示してほしい要素。【3点】

E 傍線部の直後に「学技術幻想が肥大化してゆく」という記述がある。傍線部後半の「技術観そのものが変わってしまった」とは、「科学技術幻想」の成立なのだと筆者は言っているのだから、それを答案に示すべき。【4点】

※ 筆者が、「技術観」の変貌を「幻想」の成立と捉えている、ということの把握(2点)

※ (幻想の内容として)「技術による自然の征服(支配)ができる」という内容(2点)。「制服(支配)」「という意味が明確に示されていない場合、たとえば「奉仕させる」というような比喩的(擬人的)「表現をしている答案は、マイナス1点で1点とする。」

㊦ (現代文・評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2 点 × 5 = 10 点

(a) 画廊 (b) 高騰 (c) 最期 (d) 余儀 (e) 遵(順)守

問二 12 点

【模範解答例】 医療の現場である病院において、 (A 1 点)

患者の回復を願い、生きる喜びの実感を求めて活動する、 (B 3 点)

患者と患者に関わる全ての人々が、 (C 2 点)

互いの立場を気づかいながら病と向き合い、 (D 3 点)

創造的コミュニケーションを実現していくこと。 (99 字) (E 3 点)

◎採点のポイント

※ 筆者の目指す医療現場におけるケアの在り方をまとめる設問。

A 当たり前の説明であるが傍線部が医療の現場、病院での人間関係について言われていることが、答案のどこかで言及されていなければならない。「医師 (医者) と患者」「病院で」といった言い方で、医療現場であることが特定できればよい。【1 点】  
但し「患者」という語しか答案にない場合は、医療現場とは限定できないので点を与えない。

B 傍線部を含む段落の冒頭文に示されている内容。【3 点】

※ 「患者の快復を願い」「生きる喜びの実感を求めて (を味わいたい)」の二つに分けて、2 つそろっていれば 3 点。いずれか一つしか示されていなければ 1 点とする。

C B の活動 (営み) が患者だけではなく、患者を取り巻く全ての人々のものとしてあるという趣旨が答案から読み取れればよい。【2 点】  
患者と医療関係者だけを書いている場合は C 加点なし。

D C に示した人々の相互関係・協働関係といった点が読み取れればよい。【3 点】

※ 医療従事者から患者への「一方通行ではない」という説明にとどまるものはマイナス 1 点とし、2 点。

※ 「共感、創伝、協働、自立、祈りからなる」などの言葉の羅列のみは不可。

E 「創造的 (性)」「コミュニケーション」という意味が読み取れる答案であれば広く許容【3 点】

問三 12点

【模範解答例】 経済性と競争原理の導入で (A 2点)

効率主義と成果主義が最優先される (B 2点)

苛酷な勤務環境に置かれている医療者は、 (C 3点)

人間性の回復を目指した医療現場へのアートの導入の (D 3点)

意義を理解する余裕もない程の

ストレスにさらされているから。 (100字) (E 2点)

◎採点のポイント

※ 医療現場へのアートの導入などじっくりと考える余裕も持てない、医療従事者の置かれている過酷(苛酷)な状況について、具体的な説明を求める設問。その説明は、二つ前の段落から始まっている。答案に示すべきキーワード(ターム)は明快である。

A 二つ前の段落の冒頭文に示されている内容【2点】

※「経済性」「競争原理」のそれぞれについて各1点。

B これは傍線部の直後に示されているもの【2点】

※「効率主義」「成果主義」のそれぞれについて各1点。

C 傍線部の一つ前の段落に記されている内容。本文は「過酷」となっているが「苛酷」でもよい【3点】

D 傍線部には「アートのお遊び」とあるが、アートの持つ真の意味は「お遊び」ではないと筆者は本文で主張している。その真の意味は傍線部の次の段落の冒頭文にある「患者と医療者双方の全人的な自己回復」であると考えられる。それを簡潔に示したのが解答例のDである【3点】

※人間性の回復(快復)という意味が何とか読み取れば3点与える。

「アートの重要性は自己の心の充足に役立つことだ」など。

※何らかの形でアートの積極的意義が答案に示されていれば1点与える。

「アートを肯定的に捉える」「人間的な交流に役立てる」など。

E 「ストレスにさらされている」ということがあればよい【2点】

※「理解する余裕がない」に当たる内容だけが示されている場合は1点与える。

問四 16点

【模範解答例】

- 科学的な医療行為にとどまらず患者の内面的なケアまで施し、(A 3点)  
患者とともに自身の全人的な自己快復まで追求する医者の営みは、(B 4点)  
自己達成、自己確立、他者との協働を基本姿勢として(C 4点)  
美学的な創造行為に携わるアーティストの活動と、(D 2点)  
本質を共有しているということ。(120字) (E 3点)

◎採点のポイント

※ 医者とアーティストの役割の本質的な共通性を説明する設問。

A 直前の段落末尾の文の内容を、字数を考慮して簡潔にまとめたもの。「医薬的、物理的、肉体的、技術的対応」を「科学的な医療行為」、「心理的、感情的、精神的なケア」を「内面的なケア」と言い換えている。大きくわけて二つの観点からのアプローチがあることをつかむ必要がある。【3点】

※ 本文最後から6行目の内容(医薬的・精神的なケア)をそのまま答案に示している場合、3点。

※ 「科学的な医療行為」「内面的なケア」の二つのアプローチを両方とも一般化できている場合、3点。

※ 「医薬的」と「心理的」など、例示をそのまま書いているものは2点。(片方を一般化、片方を例示そのままの場合も2点)

※ 「患者自らが治ったという実感を抱けるように、薬物の使用以外に、痛みを忘れる時間を一緒につくる」という部分を書いているものは、1点。

B これは、一つ前の段落の冒頭文に示されているもの。問三でも示したが、そこに「患者と医療者双方の全人的な自己快復」とある。ほぼ同内容が示されていれば加点してよい。【4点】

※ 「全人的」がない場合はマイナス1点。

※ 医者あるいは患者のみの自己快復に言及している場合は、点数は与えられない。

C ここと次のDで、アーティストの在り方を説明している。これは問題文の第二段落に「アートの本質」として示されている内容である。【4点】

※ a自己達成、自己確立(2点) どちらか片方でもよい。

※ b他者との協働(2点)

※ 「アーティスト、アートの在り方、本質」としての説明ができていない場合は、a・bの合計から2点減点する。DやEで表現している場合も可とする。

D 「美学的な創造行為」という表現は本文中にないので、この通りの説明をした答案はまず出さないと思される。「芸術的な創作行為」などはもちろん許容。「芸術的な創造」程度でも許容してよい。【2点】

※ 「美学的」はなくともよい。ともかく「創造(行為)」「創造的営為」といった説明があれば可。

E 「本質」が「同じ」ということが読み取れる答案であれば3点与えてよい【3点】

※ 「根本的に同等の存在と言える」とか「その営みは根底でつながっている」などで可。

※ 「性格が似ている」という程度なら1点。

【目】(古文) 採点基準(合計1150点)

問一(a) 3点

【模範解答例】殿が(A1点)

垂れ布を(B1点)

取り払いなさって、(C1点)

◎採点のポイント

A【1点】

※Cが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。

※「殿」は「道長様」でもよい。敬意が払われた言い方でない「道長・藤原道長」等は×。

※「が」は「は」でもよい。

B【1点】

※Cが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。

※「垂れ布」は「御帳の垂れ布(布)・帳台の垂れ布(布)・周囲の垂れ布(布)」でもよく、「布・帳・御帳」でもよしとする。「帳台・寝所」等は×。

C【1点】

※1 「取り払う・取る・払う・払いのける」+尊敬(お〜になる・〜なさる) +「て」となっていればよい。

※次の場合は×で、A・Bは得点できない。

・「取り払う・取る・払う・払いのける」の意がない場合。

・尊敬(お〜になる・〜なさる)の意がない場合。

※次の場合は×(Cは0点)だが、A・Bは得点できることとする。

・「取り払う・取る・払う・払いのける」+尊敬(お〜になる・〜なさる)はできているが、「て」がない(もしくはできていない)場合。

・1はできているが、使役の意が入った「取り払わ×せなさって」になっている場合。ただし、使役の助動詞「さす」を使っている「取り払わ×させなさって」は×で、A・Bは得点できない。

・1はできているが、「取り払う」が「取っ払う」になって「△取っばらわせなさって」となっている場合。



問一 (b) 3点

【模範解答例】紫式部は (A 1点)

うまく (C 1点)

詠み申し上げたなあ (B 1点)

◎採点のポイント

A 【1点】

※ Bが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。

※ 「紫式部」は「式部」でもよい。「作者・私」等は×。

※ 「は」は「が・も」でもよい。

B 【1点】

※ 「詠む・する」+謙譲(く)申し上げる・おろする( ) Ⅱ 「詠み申し上げる・お詠みする・いたす・し申し上げる」となっていればよい。

※ 「歌を・和歌を」の有無は不問。

※ 「詠む・する」の意がない場合は×で、A・Cは得点できない。

※ 次の場合は× (Bは0点) だが、A・Cは得点できることとする。

・「詠む・する」の意はあるが、謙譲(く)申し上げる・おろする( )の意がない場合。

C 【1点】

※ Bが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。

※ 感心している感じが出ていればよいが、基本的には次の二つのうちのどちらか一つか、両方があればよい。

・ 詠嘆表現 (く)なあ・くことよ・くものだ・くよ・くねえ( )がある。詠嘆かどうか判別不明の「くな」等は認めない。

・ 「うまく・上手に・見事に・よく」等、または「上手な歌を・よい歌を」等のほめ言葉がある。

問一(c) 3点

【模範解答例】母上は (A 1点)

よい夫を持ったよ、 (B 1点)

と思っているようだ (C 1点)

◎採点のポイント

A 【1点】

- ※ Bが×の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で×になっている場合は得点できる。
- ※ 「母上」は「母・母様・上・わが妻・妻」でもよい。「あなた・あの人・彼女」等は×。
- ※ 「は」「は」が「も」でもよい。

B 【1点】

- ※ 「夫」の意がない場合は×。
- ※ 「よい」は「素晴らしい・立派な」等でもよく、「を持った」は「と結婚した・を得た」等でもよい。

※ 「よ」(念押し)の終助詞「かし」の訳は「わ・ね・な」などでもよく、「ことよ・なあ」のように詠嘆的に訳していてもよしとする。これに相当する訳がない場合は× (Bは0点)だが、Aは得点できることとする。

C 【1点】

- ※ Bが×でも得点できる (Cだけで単独で得点できる)。
- ※ 存続「たん(たり)」の訳「して」がない場合は×。
- ※ 推定「めり」の訳「ようだ」がない場合は×。推定の訳は「ように見える・と見える・とと思われる」でもよく、「だろう・はずだ・に違いない」等でもよしとする。

問一 (d) 3点

【模範解答例】私が (A 1点)

見送りをしない (B 2点)

◎採点のポイント

A 【1点】

※Bに「見送りをしない・送らない・送りをしない (後ろの二つはBで得点できない場合があるが)」の意があれば得点できる。

※「私」は「殿・夫・父・父様・父上・道長・道長様」でもよい。「あの人」等は×。

※自分で自分を「殿」などと呼ぶことも考えられる場面であり、採点は右の表現を許容する。

※「が」は「は」でもよい。

B 【2点】

※「見送りをしない」の意があればよいが、基本的には次の二つのうちのどちらか一つか、両方があればよい。

・「見送り」という語がある。

・「(母・母様・上・わが妻・妻)を送る」というかたちになっている。

※「見送り」の意が明らかでない「送らない」は【1点】。

※右の状態で、語尾や敬語など余計な表現が付いている、「送らないで」・「お送りにならない」等は×。

※「(人物)を送る」というかたちになっているが、人物 (正しくは「母・母様・上・わが妻・妻」) がまちがっている場合は【1点】。

※右の状態で、語尾や敬語など余計な表現が付いている、「あなたを送らないで」・「あなたをお送りにならない」等は×。

問一 8点

【模範解答例】騒がしさから逃れて (A 1点)

宰相の君とともに帳台の後ろに隠れていたのに、 (B 2点)

酔った道長に (C 2点)

つかまえられて、 (D 1点)

歌を詠むように強いられたから。 (E 2点)

◎採点のポイント

※A・Bの主体である「作者が」の有無は不問。

※「道長に酷い目にあわされると思った・道長に処分されると思った・道長の機嫌を損ねると思った」等の有無は不問。

A 【1点】

※DもEもが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「宴の騒がしさを避けて・東面の騒がしさを避けて」「騒がしいので」、または「殿の君達を避けて」でもよい。

B 【2点】

※DもEもが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「宰相の君とともに」の有無は不問。

※「帳台」は「御帳」でもよい。

※「帳台の後ろに」がない「隠れていたのに」は【1点】。「後ろ」が「内・なか」等となっている場合も【1点】。

※「のに」は、文意が通れば「のが」等でもよい。

C 【2点】

※DもEもが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「酔った」の意がない場合は【1点】。

※「道長」は「殿」でもよい。

D 【1点】

※「見つけられて」でもよい。

E 【2点】

※「強いられた」は「命じられた・言われた」等でもよい。

※右の意はないが、「歌を詠まないとならない」の意はある場合は【1点】。

問三 4点

【模範解答例】 「いかにいかが」の「いか」が「五十日」との掛詞である。

◎採点のポイント

- ※ 「五十日」がない説明は×。
- ※ 「いか」があれば「いかにいかが」の有無は不問。  
「いかにいかが」が「いかに」、または「いかが」だけでもよい。
- ※ 「いか」と「五十日」が掛詞、は【4点】。  
「いか」に「五十日」が掛けられている、は【4点】。  
「いか」に「いか」と「五十日」が掛けられている、は【4点】。
- ※ 「五十日」に「いか」が掛けられている、は【1点】。
- ※ 「掛詞」は、「懸詞・掛け詞・懸け詞・掛け言葉・懸け言葉」等でもよい。

#### 問四 6点

##### 【模範解答例】

鶴ほどの長い寿命が私にあったなら、 (A 2点)

きっと若君の御代の (B 1点)

千年という数も (C 1点)

数えとることができよう。 (D 2点)

##### ◎採点のポイント

A 【2点】 あしたづのよはひしあらば ← 鶴ほどの長い寿命が私にあったなら、

※ 「鶴ほど・鶴のように」の意がある場合

・ 「長い寿命があったら・長生きできたら・長く年齢を重ねられたら」、もしくは「寿命があったら」があれば 【2点】。

・ 右の意がなく、「年齢があったら・年齢が長かったら」等となっている場合は 【1点】。

※ 「鶴ほど・鶴のように」の意がない場合

・ 「長い寿命があったら・長生きできたら・長く年齢を重ねられたら」の意があれば 【1点】。

・ 右の意がなく、「寿命があったら・年齢があったら・年齢が長かったら」となっている場合は×。

##### B 【1点】

※ 「若君」が明らかでない場合は×。

※ 「若君」が明らかであっても「御代・治世・時代」が明らかでない場合は×。

##### C 【1点】

※ 「千年の数も・千年も」でもよい。年齢ではなく、年数・年月として訳していなければならない。

※ 「千歳」のままは×。年齢として訳している「千才」等も×。

##### D 【2点】

※ 次の場合は 【2点】。

・ 「数える」 + 可能 (できる) + 推量 (だろう) となっている。(「きっと」等の強意が入っていてもよい)

・ 強意 (きつと・必ず等) + 「数える」 + 推量 (だろう) となっている。(可能が入っていてもよい)

※ 次の場合は 【1点】。

・ 「数える」 + 推量 (だろう) となっている。 || 強意も可能もない「数えるだろう」等。

・ 「数える」 + 可能 (できる) となっている。 || 推量がない「数えることができる・数えられる」等。

・ 「数える」 + 意志 (しよう) となっている。 || 「数えよう」等。(強意が入っていてもよい)

※ 可能も推量も意志もない「数える」は×。

問五 8点

【模範解答例】千年でも飽き足らないに違いない (A 2点)

若君の末長い御将来が、 (B 2点)

ものの数にも入らない私のような者の心にさえ、 (C 3点)

自然と思いつけられる。 (D 1点)

◎採点のポイント

A 【2点】

※「千年でも足らない・千年でも満足できない」+推量(「だろう・」に違いない)となっていれば【2点】。

※「飽き足らない・足らない・満足できない」等がない場合は×。「続かない」等は×。

※推量がない、「千年でも足らない・千年でも満足できない」は【1点】。

※「千年でも」が「千年△も」となっている、または「千代」のまま、または「長い年月」等となっていて「千年」が明らかにならなっていない場合は【1点】。

例 千年△も満足しないだろう ・ △千代でも飽き足らないであろう ・ △長い年月でも足らないに違いない

B 【2点】

※「若君の将来が」の意があればよい。

※「末長い」はなくてもよい。「素晴らしい」等の形容の有無も不問。

※1 「若君の」がある場合

・「御将来が」は「将来が・未来が」でもよく、「御行く末が・行く末が」のように「行く末」がそのままでもよしとする。

・「御将来が」が「これからが」となっている場合は、Aが0点でない場合に限り、【1点】とする。

※2 「若君の」がない場合や、人物が誤っている(殿の・殿の一族の等)場合、  
・「御将来が・将来が・未来が」は【1点】。

・「御行く末が・行く末が」のように「行く末」がそのままである場合は×。

※「若君△も」のように「御行く末」に係っていない場合は、2の状態と考える。

(「私も」となっている場合は、Bでは×だが、Cの「私」に相当する「＝Dの「思い続け」の主体」と考えられる場合はCで採点する。)

C 【3点】

※1 「ものの数にも入らない」は「物の数でない・取るに足らない・つまらない・大したものでもない」等でもよい。これができていれば【1点】。

※2 「私のような者」は、Dの「思い続け」の主体が「私」であることがわかればよい。これができていれば【1点】。

※3 1か2のいずれか、もしくはいずれもが得点できている場合

「心」があり、これに「にさえ・にすら・にも・でさえ・ですら・でも」が付いていれば【1点】。

「心」は「気持ち・思い」等でもよく、「心地」のままでもよしとする。

D 【1点】

※「思い続け」は「思わ・思いやら・感じ・想像さ」等でもよい。

※自発(自然とされる・される等)がない場合は×。「自然と」はなくもよい。

問六(1) 4点

【解答】げにかくもく給ふめれ。

※完答。これ以外は×。

問六(2) 8点

【模範解答例】道長ほど (A 2点)

榮えている者が後ろだてとなり、その威光によって (B 2点)

若君を大事にするからこそ、 (C 2点)

御五十日の祝いの装飾も何から何までいっそうまさって

立派に見えるのだ、ということ。 (D 2点)

◎採点のポイント

A 【2点】

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「殿」となっている場合は【1点】。

※「道長の和歌によって・道長の権力が続くことを詠んだ歌によって」等、「道長によって」の意やBに係る意がなくなっている場合は×。

B 【2点】

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「ほど」はなくてもよく、「ような」でもよい。

※「榮えている者」、もしくは、「威光によって」のいずれかに相当する表現があれば【2点】。

※「榮えている者」は「権力のある者・優れた者・立派な者・偉大な人物」等でもよしとする。

※「威光によって」は「権力によって」等でもよしとする。

※「榮えている者の和歌によって・威光を詠んだ詠んだ歌によって」等、「威光によって」の意やCに係る意がなくなっている場合は×。

C 【2点】

※AもBも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で0点になっている場合は得点できる。

※「若君の後ろだてとなる・若君を大事にする・若君の世話をする・若君を養育する」等の意があればよい。

※「後ろだてとなる・大事にする・世話をする・養育する」等の意はあるが、「若君の」が明らかでない場合は【1点】。

※「後ろだてとなる・大事にする・世話をする・養育する」等の意があれば、「若君の」はDに係る「若君の御五十日の祝い」のようになってもよい。

D 【2点】

※Dだけで採点できる。

※「祝い」・「何から何まで」・「いっそうまさって」の意の有無は不問。

※「装飾（飾り）が立派に（素晴らしく）見える」の意があり、「装飾（飾り）」が「御五十日（生誕五十日の祝い）」のものであると分かれば【2点】。

※「装飾（飾り）が立派に（素晴らしく）見える」の意があるが、「装飾（飾り）」が「御五十日」のものであると分からない場合は【1点】。

※「装飾（飾り）」の意がなく、「御五十日が立派に（素晴らしく）見える・御五十日の祝いができた」等の意がある場合は【1点】。